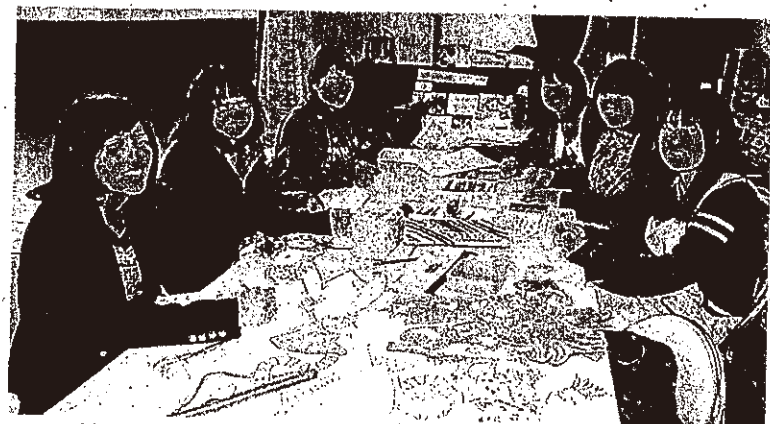


(第3種郵便物認可)

西九州大のボランティアサークル



被災地で行うレクリエーションの道具や現地で配るチラシを作るESRDサークルの学生たち

震災被災地「約束」の再訪

レクリエーションなどを通して障害者やお年寄りとの交流に取り組み西九州大(神崎市、佐賀市)の「ESRDサークル」が、ボランティア活動のため、東日本大震災の被災地、宮城県東松島市と石巻市を訪れている。2012年以降2度目の訪問。2年前の「約束」と、海外で知った被災地支援の思いを胸に、震災3年目の11日まで施設を回り、被災地に笑顔をお届け。

高齢者や子どもと交流

「忘れない」思い胸に

や小学校計4施設を訪問。年齢や障害の有無に関係なく楽しめるように工夫した「ニュースポーツ」やゲームをお年寄りや子どもたちと楽しみ、「久々にはしゃいで楽しかった」「震災後、笑顔を初めて見る子どもいた」などと感謝されたという。触れ合いの中で学生たちの心に残ったのは「被災地のことを忘れないで」「また来てね」という被災者の言葉。「もう一度行こう」とみんな誓い合った」と前部長で社会福祉学科3年の柳田菜摘さん(21)は話す。思いを後押ししたのは、13年1月に柳田さんと健康栄養学科3年の柁野里菜さん(21)が海外ボランティアで訪れたタイでの経験。現地の福祉団体が布製品を販売して震災被災地に寄付していることを知った。「日本で記憶の風化が懸念されているの

(石田剛)

国境越え復興メッセージ



被災地を訪れてタイの学生らの復興メッセージや手作りのレクリエーション用具を贈る学生たち(神崎市の西九州大)

西九州大生が被災地へ

東南アジアのタイで集めた東日本大震災の被災者へのメッセージを届けようと、西九州大の学生14人が7日、宮城県内の被災地へ向かった。住民や子どもと交流活動するごときに、国境を越えた復興への願いを伝える。

タイ学生の「思い」届ける

学生サークルでプロジェクト「愛と笑顔をつなぐ」を立ち上げ、昨年末にタイを訪問した。大学で日本語を学ぶ学生20人に被災地の状況を紹介し、学生は「頑張って」「応援しています」など被災者に対する思いをつづった。「枯れることを恐れて咲くことを諦める花はない」と言葉もあつた。

プロジェクトでは県内の人も含めて200人分のメッセージが集

まった。学生は宮城県東松島市と石巻市に11日まで滞在し、福祉施設や幼稚園などを訪れてメッセージを紹介する。レクリエーションも行って親ほくを深め、手作りの用具をプレゼントする。サークルは2年前に被災地で活動してい

(山本礼史)